社会知性の開発をめざす
専修大学

ニュース専修 ウェブ版

2005年7月号

［3面］

# 全国23万の校友を結集 地方からの“うねり”に

## 甘竹秀雄新校友会長に聞く

校友会会長室にて

05年度（平17）代議員会で専修大学校友会長に選任された甘竹秀雄氏（昭33商経商＝（株）アマタケ代表取締役会長・岩手県大船渡商工会議所会頭）は、専大卓球部が絶頂期だった昭和30年代、全国大学対抗選手権で5連覇を成し遂げたときの「黄金の腕」の一人で、昭和32年には主将として活躍。卓球部OB会長、岩手県卓球協会会長でもある。「私は商経学部で卓球学科を卒業したんです」と笑う。

校友会では03年度から副会長を務めてきた。「専修大学は明治13年に創立され、日本の大学ではパイオニア的存在です。4年後に130周年を迎えるに当たり、校友会としては300以上に上る支部、職域、同期会などに全国23万の校友が結集し、地方から中央へ大きなうねりが押し寄せていくようにしたい」と抱負を述べる。

「そのためには第一に組織の強化、支部活動への支援、第二には財政基盤の確立、大学当局への支援が大事。大学全入時代に向かうなか、専修3大学への校友の支援を強める方策を考えねばなりません」と言い、「全国に校友社長が約4200人、上場企業の役員が約5000人活躍しています。これらOB・OG経済人とも手を携え校友の輪を広げていきたい」と語る。

運営にかけては実業界で実証済み。卒業後、大手広告会社を経て、家業を継ぎ、現在岩手県内に24の飼育場を持つ。南部どり炭火焼店のチェーン展開や、菓子、惣菜をデパートに出店するなど業容を拡大、昨年、子息に社長職を譲った。いつも心に留めてきたのは「実るほど頭を垂れる稲穂かな」だという。

「大学では卓球を通して多くの友人を得ました。今でも交流しており、厳しい練習で培った精神力と共に、私の財産です」と語る。

あの「黄金の腕」に今、全国校友の衆目が集まっている。

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

# 05年度（平17）校友会事業計画

定時総会で報告された事業計画は次の通り。今年度は年会費納入会員、募金、カード会員で募集拡大を目指す三大キャンペーンの実施を予定している。

1・主要会議の開催

（1）代議員会 （2）定時総会 （3）役員会、専門部会、正副会長会 （4）顧問・相談役・参与懇談会 （5）三大学校友会同窓会連絡会

2・組織の強化、支部活動への支援

（1）支部活動等の援助、助成、連携強化 （2）支部結成促進、休眠支部の活性化 （3）校友データの整備 （4）活動顕著な支部・個人の顕彰

3・財務基盤の強化

年会費納入会員の拡大（年会費納入会員募集拡大キャンペーン）

4・大学発展への協力

（1）大学役員との懇談 （2）事業資金募集協力（募金募集拡大キャンペーン） （3）校友教員懇談会開催 （4）就職活動への協力 （5）校友会奨学生制度検討 （6）学生諸団体支援 （7）スポーツ強化支援 （8）育友会との連携 （9）大学主催講演会等協力 （10）校友文庫設置

5・会員の親睦、福利の増進

（1）専修大学カード入会促進（カード会員募集拡大キャンペーン） （2）無料法律相談会 （3）校友会ゴルフ大会 （4）「校友の集い」（ホームカミングデー）実施の検討 （5）新校友へのアピール

6・広報活動

（1）『アドニス』発行 （2）『校友会のご案内』発行 （3）ホームページの充実 （4）『ニュース専修』に関連記事掲載

7・委員会等

（1）会則検討委員会 （2）役員推薦委員会

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

# 校友会新役員

定時総会で選任された本部役員は次の通り。任期は07年(平19)までの2年間。

◇本部役員（専門部会）

会 長 甘竹 秀雄

副会長 吉江 正春

〃 池本 卯典

〃 坂本 伴治

〃 春日 良茂

〃 伊藤 良雄

〃 高橋 貞雄

〃 伊藤 隆文

〃 桃野 直樹

〃 英 伴

〃 伊東 孝浩

▽総務部

部 長 中野 郁雄

副部長 原木 幸夫

〃 水﨑 保男

〃 黒木 泰夫

▽企画部

部 長 伊藤 恒彦

副部長 大楽 和正

〃 根岸 功

〃 小川 裕則

▽財務部

部 長 嶋田 久和

副部長 瀧本 和男

〃 道明 孝之

〃 藤崎 功

▽事業部

部 長 星野 衛

副部長 長谷川芳久

〃 矢嶋 寛明

〃 野本 徳人

▽組織部

部 長 河本 雄三

副部長 伊藤 暉夫

〃 池田 一矢

〃 広田 政伸

▽文化振興部

部 長 上島 嗣男

副部長 中野 秀人

〃 森本 雅之

〃 橘 幸弘

▽体育振興部

部 長 蒲田 重勝

副部長 吉野 修

〃 岡嶋 紀夫

〃 春山 幸治

▽広報部

部 長 野田 敏

副部長 岩瀬 悦康

〃 今関 満夫

▽女子部

部 長 栗野 敦子

副部長 鈴木 吏美

〃 吉田 理奈

▽監事

監 事 平井 修道

〃 柴原 正幸

〃 磯崎 眞助

〃 村田千代子

〃 松田 征士

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

ニュース専修 ウェブ版
2005年7月号
[3面]

# 春の褒章

◇瑞宝双光章

岸 登氏(きし・のぼる＝昭31商経)秋田県社会福祉協議会副会長

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

社会知性の開発をめざす 専修大学

ニュース専修 ウェブ版

2005年7月号

[3面]

# 校友会からのお知らせ

＜九州連合総会・宮崎県支部総会＞

▽日時＝8月21日（日）【九州連合】12時30分～【宮崎県支部】16時10分～▽場所＝宮崎市「ホテルプラザ宮崎」

※当日、14時15分から、日高義博学長と良永和隆法科大学院教授による「文化講演会」が開催されます。

＜大分県支部55周年記念大会＞

▽日時＝9月10（土）、11日（日）▽場所＝別府市の「ホテル白菊」で※10日の17時30分から支部総会、18時から55周年記念式典を開催。11日は湯布院を見学します。お問い合わせは事務局 電話097・543・7234＝河野）まで。

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

2005年7月号

［3面］

# 校友の本 紹介

フルモニ！ 超健康ダイエット宣言
松田麻美子監修

自然の法則に基づいたナチュラルハイジーンの実践者である松田麻美子さん（昭46文、ヘルス・エデュケーター、米国在住）の近著。

「フルモニ」とは朝食をフルーツにする生活習慣。食物酵素たっぷりの新鮮な果物の素晴らしさを全編、楽しいイラストで分かりやすく解説している。なぜ「フルモニ」習慣がダイエットや健康に効果があるのか、果物の正しい食べ方、季節の果物を使った料理法など盛りだくさんの内容だ。
（グスコー出版、定価1000円＋税）

最強ブログ営業術
横須賀てるひさ著

企業支援専門の行政書士事務所を経営する横須賀輝尚氏（平15法）が、ブログをビジネスに活用させるための『ブログ営業術』のマニュアル本を出版した。WEBを通した露出範囲の広さからインターネットビジネスにおいて新たな可能性を注目されている『ブログ』（ウェブログの略。日々更新される日記的なサイトの総称）。本書は方法論に終わらず、実践に基づいたノウハウが凝縮されている。
（技術評論社・税込1449円）

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

## 専大校友を訪ねて

# 子供たちの「情性」を育むこと30年

児童自立支援施設「国立きぬ川学院」調査課長
板垣 辰彦（いたがきたつひこ）さん（昭46文）

「真に幸せになるための土台を一から作り直す―それが私たちの使命です」

鬼怒川のほとり、遠くに那須の山々が見える緑豊かな田園地帯に、広大な敷地を有する児童自立支援施設「国立きぬ川学院」。全国から受け入れた女子児童（現在64人）と真正面から向き合い、成長を厳しく温かく見守る。

犯罪の低年齢化が急速に進み、罪を犯しても刑事罰の対象にならない触法少年の数は急増している。同施設では、非行などの問題行動を起こした児童や生活指導を要する児童を預かり、専門資格を持つ夫婦の指導員が寝食を共にし、自立を支援する。情性（じょうせい）の欠如がきわめて問題。それを育むことが最大の目標です」。

島根県出身。犯罪心理学に興味を持ち、文学部人文学科心理学コース（当時）に学び、都内の新聞販売店に住み込みで配達をしながら大学に通った。卒業後は「児童福祉に役立つ仕事を」と国立武蔵野学院附属教護事業職員養成所で1年間学び、児童自立支援の基礎的な理論、技術を習得した。そのまま同学院に入職。男子の「武蔵野」で28年、女子の「きぬ川」で2年。全国で2院のみの国立施設のスタッフとして30年のキャリアを持つ。明子夫人と共に宿舎に住み込み、2女を育て上げた。

高校時代は軟式テニスでインターハイに出場したスポーツマン。気さくな人柄で、問題が起きたら「まず『現場』に直行する」行動派だ。豊かな自然環境の中、子供たちとはスポーツなどで汗を流してふれあい、少しずつ温かな心を育てる「三汗四恩」を大切にする。「施設に入所したことをネガティブに考えるな、第二の故郷だよって言っています」。それだけに「退院後、パートナーや子供連れで訪ねてくれる時が最高の喜びです」。

「愛される喜びを知れば、人間は変わる」。その一途な信念で、子供たちの「心の闇」に光をさす努力を続ける。

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.